

図画・美術教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	美術のちから ～大人の絵と子どもの絵をアートの世界から見つめてみると～	
日 時	令和8年8月3日(月)	
会 場	石狩教育研修センター	
講 師	岩崎 愛彦 氏 (江別市立東野幌小学校 校長)	
参加者	50 名	
研修会 の 様 子		第一部 鑑賞してみよう① 印象派の作品から誰の作品なのかを見ていきました。その後、ルノアールとモネの同じ場所の作品を見ました。 第二部 鑑賞してみよう② マルセル・デュシャン「泉」にタイトルを付けました。現代美術につながる新しい芸術観について学びました。
		第三部 美術教育の歴史から 明治時代からどのような図工美術の授業が展開されたかを学びました。 第四部 子どもの絵について コンセプチュアル・アート(作品に込められた思いや概念をもっとも重要な要素とする芸術)に似ているところから子どもの作品を見て紐解いていきました。
		第五部 授業づくりのために 子どもへの問いかけはどうしているか、指導者は何を見て問いかけていくのかを学びました。 第六部 さいごに 指導要領の内容と照らし合わせて授業の指導について学びました。図工美術では何を育てるのか大切なことは何か考える時間となりました。
		講義の最後には、授業に関わって道具の要請や考え方の広め方等の様々な質問が出ました。話し合いの場面でも対話が多く、研修会に熱心に取り組む姿が見受けられました。